

議論のポイント3. 植栽について

1) 緑の方針

■全体方針

歩行者環境の改善、緑のうるおいの創出、周辺建物や広告物へ配慮した
植栽配置と緑陰空間の確保

■整備方針

- 既存の高木等の活用（歩行者動線の影響範囲は調整）
- 低木（植え込み）の廃止によるゴミ捨て等の抑止
- 安全な歩行者動線と滞留空間における緑陰の確保
- アイストップ（人の注意を引く）となる植樹

2) 植栽配置の考え方



【既存】クスノキ（シンボルツリー）



駅前広場を囲む樹木



アイストップとなる樹木（四季の変化のある樹木・大田区の樹木・和を感じさせる樹木 など全体イメージに合った特徴的な樹木）



シマサルスベリ



足元空間が見通しの良い樹種（けやき）



大田区の花 梅の木



武蔵小杉駅

樹木と一体となったベンチ

樹木の足元空間（植栽柵パターン：舗装材・植込み）



表参道駅前のベンチ



舗装材で覆った例(南青山周辺)



地被類で覆った例(アブリ前)

議論のポイント4. 照明について

1) 照明の方針

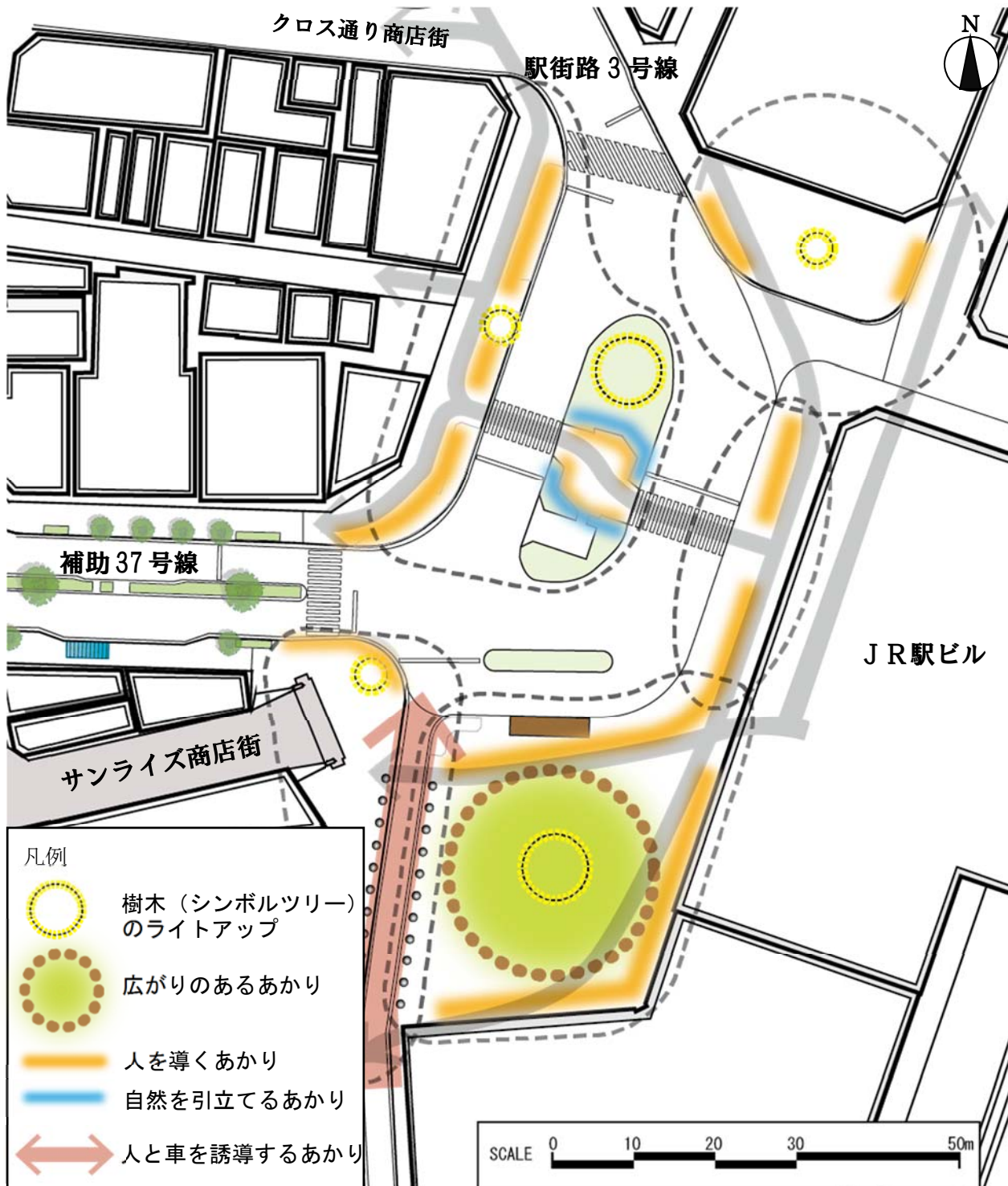
■全体方針

統一的な歩行者動線の街路灯設置と空間を演出する照明の組合せによる駅前広場の魅力向上

■整備方針

- 歩行者動線の基準照度の確保
- スペース別の空間に合わせた演出照明の設置
- LED照明の導入と自然エネルギーの活用
- 発災時に対応可能な非常用照明の設置

2) 照明配置の考え方



樹木 (シンボルツリー) のライトアップ



丸ノ内仲通り

広がりのあるあかり



阪急 西宮周辺



大崎駅西口周辺

人を導くあかり

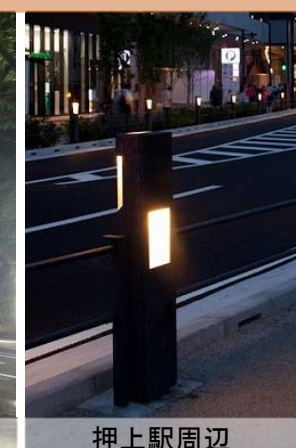


川崎駅東口

人と車を誘導するあかり



大森ベルポート周辺



押上駅周辺



車両ライトなどに反射する特殊塗料

自然を引立てるあかり



大手町1丁目周辺



飯田橋アイガーデン

自然エネルギーを活用したあかり



武蔵小杉駅

議論のポイント 5. 案内誘導サインについて

大田区サイン基本計画～大田区サイン整備の基本的考え方～との連携（平成 21 年 9 月 大田区）
 ※サイン整備を円滑に行うために、必要に応じて区内に「(仮称)サイン整備推進委員会」を設置し、調整を図ります。

1) 案内誘導サインの方針

■全体方針

来街者にむけた蒲田駅西口の必要な情報の分かりやすい案内提供、
 駅前広場の景観に配慮したサインのデザインと配置

■整備方針

- 効果的な位置への整然とした案内板の設置
- 絵、写真、記号などの活用や多言語に対応した表示
- 視認性や誘導性を高める統一性のある表示・デザイン

2) 対象サインの範囲

○大田区が設置・管理する案内標識

例) 公共施設案内標識、街路案内図 (マップ)
 現況) 公共交通の案内はあるが、行き先を案内するものがない
 ・誘導サインが木々などに隠れており分かりにくい

○大田区立施設の施設案内 (方向を示す看板)

○災害時の避難誘導サイン

現況) 災害時の避難誘導サイン、避難場所へ案内するものがない

○その他大田区が設置する標識・看板

例: 文化財標識、馬込文士村案内板 (大森駅付近) など
 現況) 蒲田の歴史紹介「商店街と銭湯」はあるが、見えにくい場所にある。

3) サインの種類 (他事例紹介)

①拠点サイン

(広域案内+周辺案内+駅前広場案内)



武蔵小杉駅

②バス案内サイン

(乗り場案内+行き先案内+路線図)



武蔵小杉駅

③施設誘導サイン

(原則 拠点サイン間を結ぶ動線の中で分岐する箇所に配置)



蒲田駅 (西口)

④その他

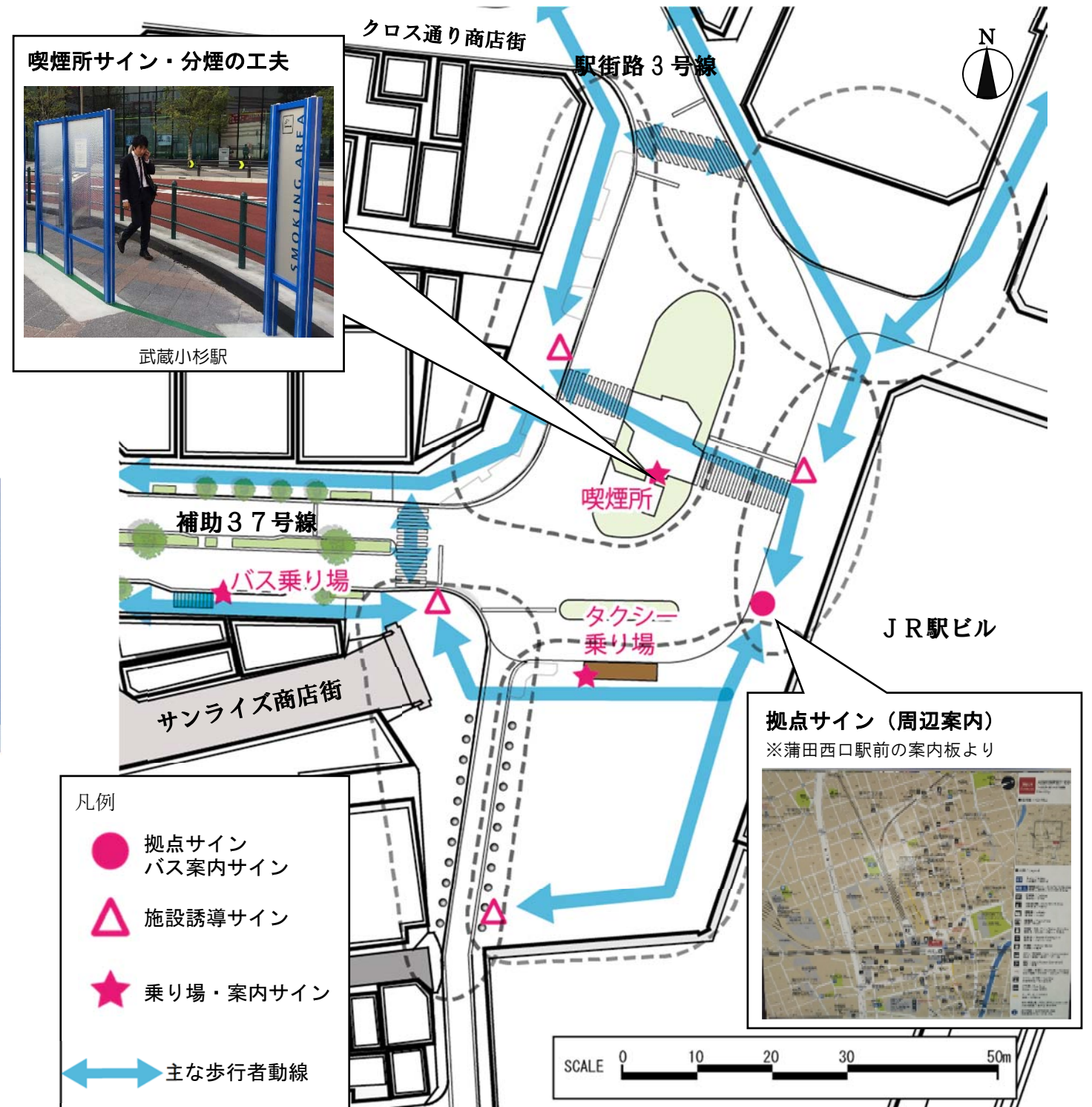
(歴史の紹介・取り組みの案内・乗り場案内 など)



川崎駅 (東口)

4) 公共の案内誘導サインの考え方 (種類と配置)

・行政主体で整備する駅前広場周辺の歩行者空間に設置するサイン



- 凡例
- 拠点サイン
バス案内サイン
 - △ 施設誘導サイン
 - ★ 乗り場・案内サイン
 - ← 主な歩行者動線